【教育理念】児童の笑顔、教師の笑顔、保護者の笑顔が　魅力ある学校を作る

㋕んどういっぱい　㋔キドキいっぱい　㋒クワクいっぱい　㋓ラキラ輝く　大野木場小学校便り　№.２８
令和７年　４月２１日（月）

かどわきっ子

南島原市立大野木場小学校
校　長　　森田　純弘

ＰＴＡ新体制

先週１８日（金）の授業参観・学級部会、そしてＰＴＡ総会には、たくさんの方に御参加いただきました。年度初めの御多用のなかにありがとうございました。

森田裕介 前会長様をはじめ、役員の皆様方には大変お世話になりました。今後も、変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

福島慎司 新会長様をはじめ、新役員の皆様、令和７年度が「笑顔いっぱいのPTA活動」になりますよう、力をお貸しいただければと存じます。

新役員様のお名前については、総会資料にありますので、総会への参加が叶わなかった方は、そちらで御確認ください。

ＰＴＡ活動って？

今年度の活動については、ＰＴＡ総会に先立ち、評議員会で吟味され、総会で承認を得ました。そもそもＰＴＡ活動って、どんなことをするものなのでしょうか。ＰＴＡとは、「親の学びの場」という役割もあります。

昔とは違い、どの御家庭も共働きが多くなり、ＰＴＡに求められることやＰＴＡでできることも変わってきたかもしれません。先日御紹介したビオトープも、コンクリートの池では寂しいという思いから、ＰＴＡが力を合わせ、深江川から石や砂利などを運び、地域の方もメダカなどを放流したとお聞きしています。昭和４８年に作られた本校の「ＰＴＡの会則」には、活動目的が三つ記されています。

①	児童の幸福のために、父母と教師が協力する。
②	良い父母、よい教師となるように努める。
③	教育的な環境をつくることに協力する。

なるほど、ビオトープづくりは、①と③を目指しての活動ですね。

上記①②③とこれまでの活動を照らし合わせたとき、どのようなことを感じますでしょうか。「〇〇をしなければならない」ということは、どこにも書かれていません。「これまでやってきたから」とか、「そんなことはしたことがないから」と思う必要はありません。しかし、できることを無理のない範囲でやることが、持続可能なものにするための条件かなとは思います。活動や組織を見直す際には、目的に立ち返ってみると、いいかもしれませんね。

今年度の活動が、ＰＴＡの活動目標や努力目標に沿って充実したものになることを期待しています。

明日は歓迎遠足

明日は、歓迎集会・歓迎遠足を予定しています。しかし、天気予報では天気が崩れそうです。入学した１年生にとってはとても残念ですが、そのときは校内遠足となります。午前中に外に出られそうなら、旧校舎まで行きたいと考えています。

給食は止めてありますので、雨が降っても、お弁当類の準備をお願いいたします。

ちょっとブレイク

昨年度2月末の「かどわきっ子」で、見たい映画について書きました。アカデミー賞の短編ドキュメンタリー部門にノミネートされた「小学校～それは小さな社会～」というもので、東京の公立小学校を舞台にしたドキュメンタリー映画です。3月にNHKで短編版が放送されましたので、御覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

この映画でテーマとなったのは、日本の「特別活動（特活）」でした。実は、大野木場小学校でも、今年度は「特別活動」に力を入れて取り組むことになりました。学級での話合い活動や係・当番活動、委員会活動やクラブ活動など多岐にわたります。活動をどのようなものにするか、生活をより充実したものになっているかなど、職員間で研究し、子どもたちのより良い成長につなげたいと思います。